

首都高速道路株式会社第6期(平成23年3月期)中間決算のポイント

(会計期間:平成22年4月1日～平成22年9月30日)

1. 連結経営成績の概要

(単位:億円 億円未満切捨て)

	平成23年3月期	平成22年3月期	増減	
	中間期連結実績(A)	中間期連結実績(B)	(A)	(B)
営業収益	1,313	1,266	47	
料金収入等	1,241	1,207	33	
道路資産完成高	52	38	13	
その他(関連事業)	21	21	0	
営業費用	1,316	1,298	17	
内:道路資産賃借料	986	969	16	
営業損()益	2	32	29	
経常損()益	2	31	29	
中間純損()益	2	20	17	

端数処理の関係で、計が合わないことがあります。

- ◇ 営業収益については、高速道路事業において、交通量が113.3万台/日(前年同期比1.3%増、1.4万台/日増)と景気回復により増加した結果、1,313億円(同47億円増)となりました。
- ◇ 営業費用については、高速道路事業において、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構との「都道首都高速1号線等に関する協定」に基づく道路資産賃借料が前年同期より増加となり、1,316億円(前年同期比17億円増)となりました。
- ◇ 以上の結果、営業損失2億円(前年同期は営業損失32億円)となりました。
- ◇ なお、経常損失2億円(前年同期は経常損失31億円)、中間純損失2億円(前年同期は中間純損失20億円)となりました。

2.平成23年3月期の連結業績見通し

(単位:億円)

	通期連結見通し	平成22年3月期	増減	
	(A)	実績(B)	(A)	(B)
営業収益	3,098	4,991	1,893	
料金収入等	2,475	2,417	57	
道路資産完成高	522	2,500	1,978	
その他(関連事業)	100	77	22	
営業費用	3,090	4,941	1,851	
内:道路資産賃借料	1,841	1,791	49	
営業利益	7	50	43	
経常利益	4	49	45	
当期純利益	2	18	16	

端数処理の関係で、計が合わないことがあります。

営業収益は3,098億円、営業利益は7億円、経常利益は4億円、当期純利益は2億円となる見込みです。

- ◇ 料金収入等については、利用交通量が、1日当たり113万5千台(前年同期比1.3%増)と見込まれ、景気回復の影響により大型車の交通量が増加していることから増収を見込んでいます。
- ◇ 道路資産完成高については、平成22年10月の川崎線(殿町~大師ジャンクション間)の開通等に伴う機構への引渡しを計上しています。

注)上記に記載した予想数値は、現時点での情報により判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含みます。実際の業績等は様々な要素により上記予想数値と異なる場合があります。

(参考)平成23年3月期の個別業績について

(単位:億円)

	中間期個別実績	通期個別見通し	事業計画	前年度実績
<高速道路事業>				
営業収益	1,293	2,997	3,048	4,914
料金収入等	1,241	2,475	2,441	2,414
道路資産完成高	52	522	606	2,500
営業費用	1,304	2,997	3,040	4,893
賃借料	986	1,841	1,782	1,791
道路資産完成原価	52	522	606	2,500
管理費	266	632	652	601
営業損()益	10	0	7	20
<関連事業>				
営業利益	1	2	2	4
<全事業>				
営業損()益	9	2	9	25
経常損()益	7	2	2	23
当期純損()益	3	1	1	4

端数処理の関係で、計が合わないことがあります。

注)上記に記載した予想数値は、現時点での情報により判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含みます。実際の業績等は様々な要素により上記予想数値と異なる場合があります。